

## 【ワークショップレポート】

### ゴミ拾いとマチのデザイン@川崎

2016年2月13日、国際大学グローバル・コミュニケーション・センター(以降、GLOCOM)は、川崎市環境総合研究所、株式会社ピリカ、NPO 法人グリーンバード、一般社団法人カワサキノサキ、ホテル ON THE MARKS KAWASAKI の協力を得て、川崎にあるホテル ON THE MARKS KAWASAKI でワークショップ「ゴミ拾いとマチのデザイン」を実施しました。11:45 にスタートし、ホテル特製の「クラフトビールカレー」のランチをいただいた後、「ワールドカフェ」という形式で路上ゴミについて話し合いました。その様子をレポートします。

#### ●ワークショップ実施の背景、目的

川崎市は公害問題を乗り越え、環境に対する取り組みで国内外をリードする「環境都市かわさき」として生まれ変わったという歴史があります。しかし、少子高齢化が進み一人暮らし世帯の増加が予想される今後は、地域の人々のつながりが弱まり、その結果として再び身の回りの環境が悪化していくことも考えられます。

GLOCOM は、2014 年度より、川崎市環境総合研究所と共同で、過去の写真や映像などさまざまな素材を用いて、地域の人々の「かわさきの環境」をめぐるコミュニケーションについて研究活動を行ってきました。2015 年度は、市民にとって身近な環境問題のひとつである「路上ゴミ」を題材に、ワークショップや調査を行っています。

今回のワークショップは、川崎市に住む人や働く人、川崎市で環境問題に取り組む NPO や市民団体、地域のお店の人など、さまざまな方々に「ゴミ拾いと川崎のマチのデザイン」について話し合ってもらう目的で開催されました。また、話し合う際の素材として、川崎駅周辺、鷺沼駅周辺、新百合ヶ丘駅周辺で行った路上ゴミ調査の結果も発表されました。

冒頭、GLOCOM の主任研究員・准教授の庄司昌彦氏は、「この機会に、多くの人たちが自分のまちのことを知り、いろいろな話をして、そして次のアクションを起こしてほしいと思います」と話しました。



ワークショップの趣旨を説明する国際大学 GLOCOM の主任研究員・准教授の庄司昌彦氏



庄司氏に続き、グリーンバード川崎駅チームの田村寛之氏、ホテル ON THE MARKS KAWASAKI 支配人の吉岡明治氏が挨拶をした

●特製カレーをいただきながら交流ランチタイム

主催者および協力団体の挨拶が終わった後は、話したことの無い人と同じグループになるよう、各テーブル2名ずつ移動して席替えをし、ランチタイムに。自己紹介をしながら、ホテル ON THE MARKS KAWASAKI 特製のクラフトビールカレーをいただきました。参加者は「スパイシーでおいしい！」と笑顔。食事が一段落ついたところで PR タイムが設けられ、何人かの参加者が自分の活動について話をしました。ホテル ON THE MARKS KAWASAKI を拠点にランニングイベントを企画している人、川崎市内で飲食店を営んでいる人、横須賀でゴミ拾い活動を始めようとしている人、川崎産の野菜を使用した食のイベントを企画・運営しているシェアオフィスの経営者など、実に多様な人がいます。食後には、川崎市内にあるカフェ「カフェデニム」のハンドドリップコーヒーと、出張料理人・亜妃琉まこと氏手作りのチョコレートブラウニーをいただき、参加者はくつろいだ雰囲気の中で交流を楽しみました。



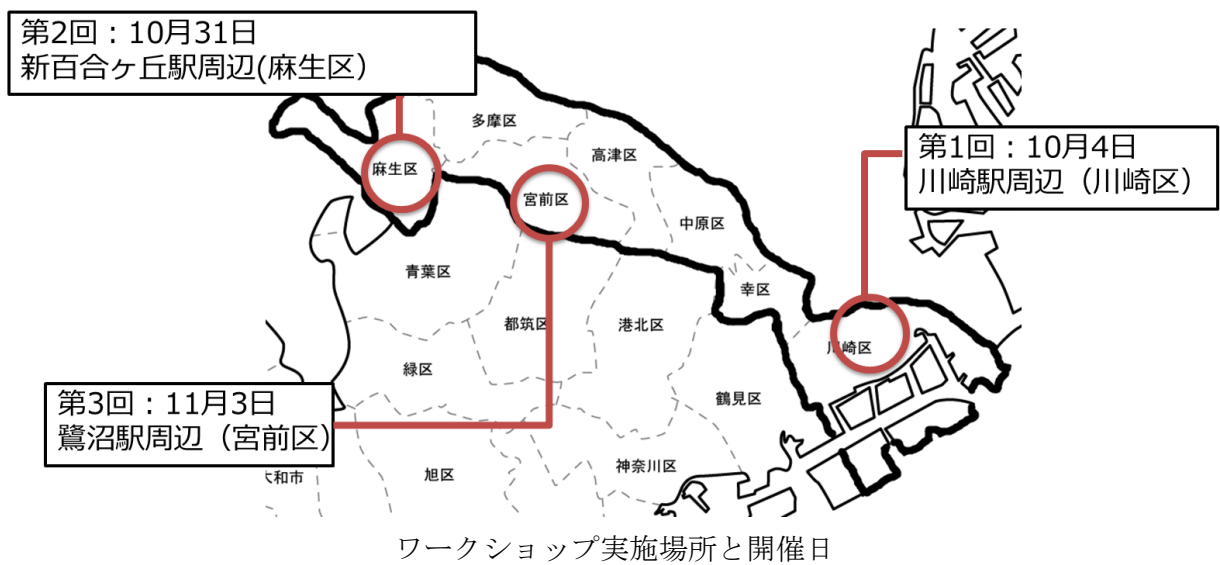
カレーを堪能しながら、どのテーブルでも話が盛り上がっていた



PR タイムで話をする参加者

### ●これまでのワークショップの報告

13:00 より午後の部がスタート。GLOCOM の菊地映輝氏より、約 10 分間の映像を流しながら、これまでの活動について報告がありました。今年度、GLOCOM では、川崎市内の北・中・南部にあたる新百合ヶ丘駅、鷺沼駅、川崎駅の各駅前それぞれワークショップを開催してきました。ワークショップでは、後述するポイ捨てゴミの数量把握調査の他、ポイ捨てゴミ問題に興味のない人に興味を持ってもらうためのフライヤーづくり、ポイ捨てをしている人が、どんなことを見たり言ったり考えたりしているかを想像する「Empathy Map」、そして、その人物にポイ捨てをやめさせるにはだれがどうすればいいかを考える「Who Do?」などの複数のグループワークを通じて、対話行われていました。



ワークショップで実際に作ったフライヤーの例を見せる菊地氏

### ●株式会社ピリカの紹介、ゴミ拾い調査の手法および結果について

次に、株式会社ピリカ（以降、ピリカ）代表取締役の小寫不二夫氏より、どのようにゴミ拾い調査を行ったかについて説明がありました。ピリカ社は、だれかがゴミを拾ったらそのゴミの数や量を写真とともに投稿し、ユーザー同士で共有するという仕組みのゴミ拾い SNS「ピリカ」を運営する企業です。同 SNS は、清掃活動に取り組む個人や団体の活動記録と広報活動のためのプラットフォームとして、世界 77 か国で利用されています。

さらにピリカ社では、SNS とは別に、地域のポイ捨てゴミの数量を計測する調査を実施しています。2014 年より 1 年かけて、ポイ捨てゴミのデータ定量化の手法をゼロから整備。予め選定した調査地点につき、長さ 10m の範囲を選んで、路上の見えやすい場所と見えにくい場所のゴミを数えます。東京 23 区内で行った調査は、テレビで紹介されるなど話題となりました。

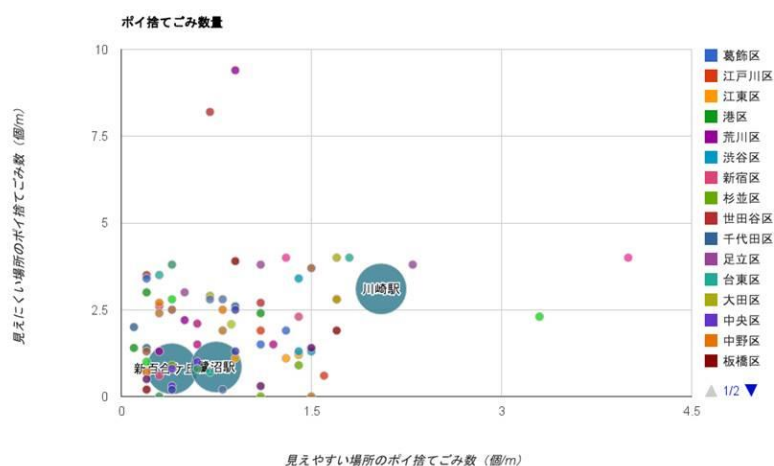
先述の新百合ヶ丘駅、鷺沼駅、川崎駅でのワークショップでは、この調査方法を使用して、



駅前に落ちている路上ゴミのデータ可視化作業を行いました。調査の結果、最もポイ捨てゴミが落ちていたのが川崎駅前であること、同じ駅前であっても場所や改札口によって、ゴミの量に差があること、落ちているゴミの傾向に違いがあることなどがわかりました。



新百合ヶ丘駅・鷺沼駅・川崎駅での調査結果



東京 23 区内の他の駅との比較。川崎駅が特にポイ捨てゴミが多いことがわかる

上記の調査方法で、駅前のすべての道路に落ちているゴミを調査しようとする、人出が多く必要になり、費用や時間がかかってしまい大きな困難を伴います。その問題を解決するために、小嶋氏は調査を機械化しました。スマートフォンやデジタルカメラで路上を動画撮影。撮

影した映像を一コマずつコンピュータで解析し、歩道表面に落ちているポイ捨てごみの種類や数を判別。最後に人が目視で最終確認・修正を行うという調査手法「タカノメ」を開発したのです。この手法を使用し、川崎駅前を網羅的に調査した結果が下記です。



地図データ(Google,ZENRIN)

タカノメ調査の結果 (たばこの分布)



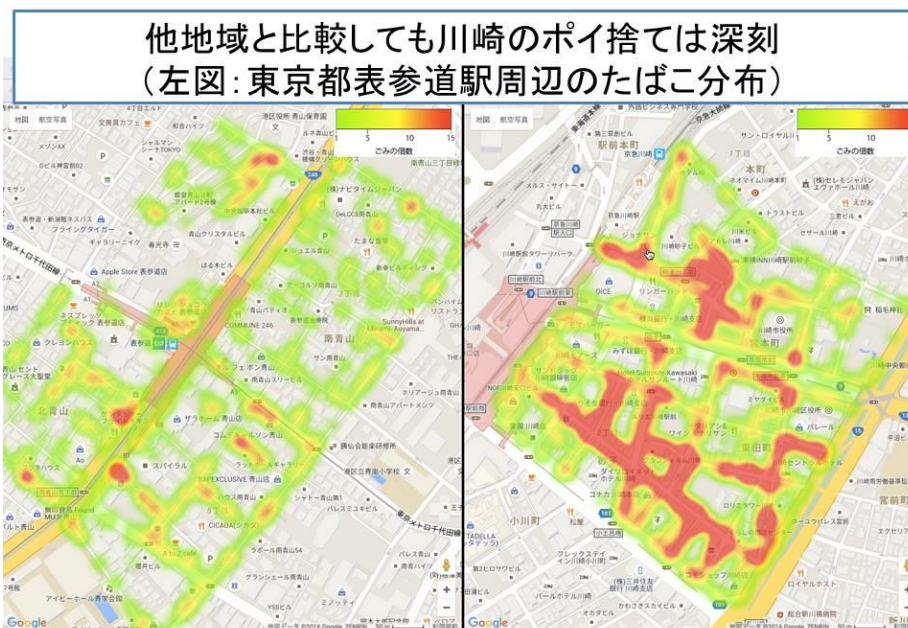
地図データ(Google,ZENRIN)

タカノメ調査の結果 (たばこ以外のゴミの分布)

調査の結果、川崎駅前の中でも「仲見世通り」と呼ばれるエリア（地図中下部の赤く表示されているエリア）に最もゴミが落ちていることがわかりました。また、東京都表参道駅などと



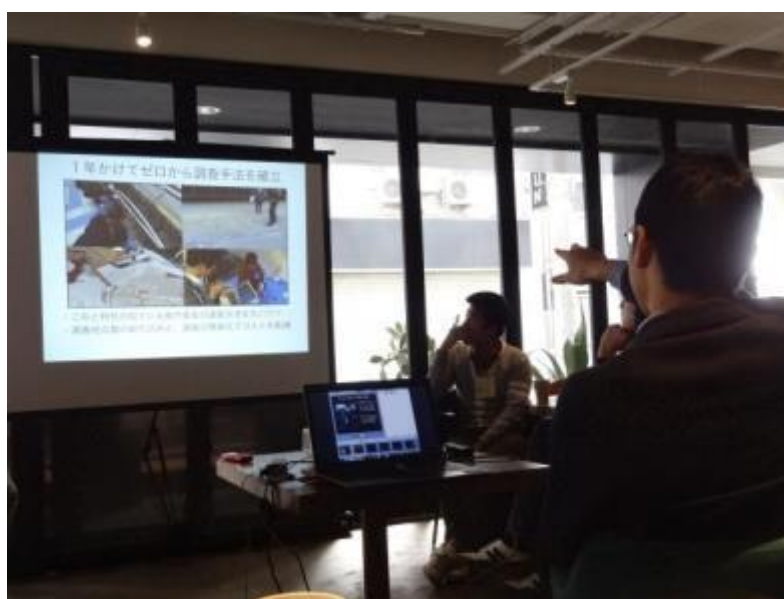
比較しても、圧倒的に川崎の方が汚いことも示されました。



地図データ(Google,ZENRIN)

### 東京都表参道駅周辺との比較

しかし小嶋氏は「これだけ汚いということは伸びしろが大きいということ」とポジティブ。さらに、「ゴミが多いのはモラルだけの問題ではありません。タイルや目の粗いアスファルトはゴミが引っかかりやすかったり、植え込みがあるとポイ捨てが増えたりします。環境とポイ捨ては関係があると考えています」と小嶋氏は話します。「川崎の“伸びしろ”を生かして、どうやってまちをきれいにしていくのかを、みなさんと議論してもらえたら。そして“川崎モデル”を作っていきます」と、小嶋氏は参加者に呼びかけました。



ゴミ拾い調査の手法について説明をするピリカの小嶋氏

ここまでの話を受けてグループで意見交換をしたところ、以下のような意見が出ました。

- ・“伸びしろ”というプラスの考え方がおもしろい！
- ・ゴミの数値化がされるのはよい。実態がわかる。
- ・可視化して SNS で拡散するのはよい。
- ・公園の近くも汚いことが多い。
- ・川崎市はポイ捨ても歩きタバコも禁止なのに…。この状況を何とかしたい！

### ●ワールドカフェ「路上ゴミを減らすマチのデザインを考える」

続いて、「路上ゴミを減らすマチのデザインを考える」というテーマでワールドカフェを行いました。ワールドカフェとは、カフェにいるようなリラックスした雰囲気オープンに会話を行うことで、知識や知恵を創発する話し合いの手法です。4~5 人単位の小グループで、メンバーの組み合わせを変えながらグループディスカッションを複数ラウンド続けるため、参加者全員が話し合うような効果も得られます。当日も、テーブルごとに一人代表者を決め、その人以外がラウンド終了ごとにテーブル間を移動するという形でグループディスカッションを複数回行いました。話し合いのテーマは、「空間のデザイン：路上ゴミを減らすためのモノや場所のデザインとは？」「行動のデザイン：路上ゴミを減らすためにはどんな仕組みやコミュニケーションが必要？」という2つの問いについてです。それぞれのテーマごとに2、3回ずつグループディスカッションを実施し、最後に各テーブルの代表者がこれまでテーブルで出た アイディアアイデア をまとめて報告しました。それぞれのテーマで出てきたアイデアや意見を紹介します。

#### 空間のデザイン：路上ゴミを減らすためのモノや場所のデザインとは？

- ・暗いところ、人目につきにくいところを減らす。
- ・市公認のゴミ箱を作ってもらおう。
- ・子どもを遊ばせる場所を増やす。
- ・ゴミが集まる場所（捨てやすい場所）を設けて集中して掃除する。
- ・ゴミ箱や灰皿をなくすほうがよいのでは？ 自分のは自分で持ち帰る！
- ・植え込みの背を低くする。柵を作らない。
- ・人の目を意識させる。
- ・きれいなどころには捨てにくい。
- ・仲見世通りは飲み屋街なので、事業ゴミの出し方にも問題があるのでは。
- ・家庭に持ち帰ってもらうために、おしゃれなエコバッグを作る。（衛生的でデザインも素敵なもの、持ち歩くのを習慣にしてもらう）
- ・近づきたくなるゴミ箱を設置する。
- ・植栽の代わりに水を流しては？

#### 行動のデザイン：路上ゴミを減らすためにはどんな仕組みやコミュニケーションが必要？

- ・ポイ捨てしない宣言の入った格好いいエコバッグを持つ。
- ・子どもたちが掃除をしている姿を大人に見せれば抑止力になるのでは？
- ・フラッシュモブ、ゴミ捨てエクササイズなど、楽しい形で発信していく。
- ・子どもに関わってもらうのが大事。ほめる！
- ・ゴミ拾いは楽しい、人がつながるという点をアピールする。ゴミ拾い婚活はどうか。
- ・マイトング、おしゃれなゴミ袋などの格好いいグッズでゴミ拾いをファッショナブルに。



- ・ポイ捨てをする人の罪悪感に訴える。
- ・子どもの声で放送を流す。
- ・清掃にどれだけ費用がかかっているかを公表する。
- ・集中ポイ捨てエリアを作る。



各テーブルで議論が盛り上がった



テーブルごとに話し合った内容を報告する代表者

### ●ワークショップに参加して

最後に、大きな輪になって、全体を通しての感想をひとりずつ述べました。参加者の声を紹介します。

- ・いろいろな気づきがあった。
- ・これからもゴミを拾いたい。
- ・こういうワークショップに来ると刺激がある。

- ・ゆるくつながる、「かっこいい」「楽しい」というのがまちづくりのキーワード。
- ・川崎がわくわくするようなまちになれば・・・！
- ・ワークショップに参加するのは初めて。いろいろな意見が聞けて参考になった。
- ・ゴミ拾いの話題でここまで盛り上がるとは予想外だった。
- ・いろいろなアイデアが出て、目からうろこが落ちるようだった。川崎はパワーがある！



ワークショップを終えての感想をシェアする参加者たち

GLOCOM の庄司氏は、「ここで出たアイデアを具体的な行動につなげてほしい」と訴えました。また、グリーンバード川崎駅チームの田村寛之氏は、「みなさんの活動や研究、今日の内容を、ぜひ SNS で発信してください。参加者のみなさんが、今日をきっかけにつながっていくことを願っています」と話しました。多様な人々が参加し、活発な意見交換が行われたワークショップは、盛会のうちに終了しました。